

第31回千葉県少年野球低学年大会（ロッテ旗） 水郷・香取郡市予選大会要綱

- 1 趣旨
本大会を通じて、少年少女の、スポーツを愛し、楽しみ、相互が協調・調和できる心と、総合的な運動による身体の健全な育成を図り、各チームの伸展に寄与すると共に、軟式野球の普及に努める。
- 2 主催 香取市スポーツ少年団
- 3 後援 香取市スポーツ協会
- 4 主管 特定非営利活動法人水郷軟式少年野球協会
- 5 期日 令和7年5月10日（土）雨天順延
11日（日）
18日（日）
尚、日程については相談の上変更あり
6. 会場 香取市与田浦運動広場 他
(香取市津宮4992番地85)
7. 受付 試合会場受付
8. 開会式 実施しない
9. 表彰 優勝 賞状
準優勝 賞状
10. 登録人員 大会出場登録でのチーム構成は、成人者による代表者、監督、コーチ（2名）、スコアラー、介護員と選手は（小学4年生以下）9名以上20名以内とする。ベンチ入り指導者（監督、コーチ）は、認定指導者有資格者1名以上とする。
低学年大会に限り、選手以外の監督・コーチがベースコーチとしてコーチスボックスに入ることを認める。
11. 参加負担金 1チーム 6,000円
12. 競技運営に関する注意事項
 - (1) 対戦表決定後は、選手の追加、変更及び背番号などの変更は認めない。但し、疾病・負傷等の特別な場合は、資格審査の上、認めることもある。
 - (2) ベンチは、組み合わせ番号の若い方を1塁側とする。
 - (3) シートノック
 - ① 補助員としてコーチ（背番号28・29）を認める。
なお、コーチ1人のブルペン捕手を認める。（試合開始までの時間を許可する）
 - ② 後攻チームより行い、時間は5分間とする。
 - ③ ノッカーも必ず選手と同様のユニフォーム並びに、捕手はプロテクター、レガース、捕手用ヘルメット、ファウルカップを必ず着用すること。
 - ④ 大会運営上、シートノックを行わずに試合を開始することもある。
 - (4) 雨天の場合
 - ① 雨天時の態度は、午前6時30分に決定するので、各チームは事務局へ問い合わせること。
 - ② 雨天の場合でも日程の都合上、球場が使用可能な場合は試合を行う。
 - ③ 当日試合を全く行わない場合と、試合開始時間を繰り延べて行う場合があるので、大会本部からの連絡に注意すること。
 - (5) アウト時のボール回しは認めない。
 - (6) 大会中の怪我等事故については、各チームで責任を負うものとする。
 - (7) その他試合の進行については、球場責任者及び球場責任審判員の指示に従うこと。
 - (8) 試合中の選手への指示は、ベンチ入りした監督・コーチに限る。**
13. 競技規則
 - (1) 最新年度「公認野球規則」並びに（公財）全日本軟式野球連盟が発行する最新「競技者必携」及び「本大会規定」を適用する。
 - (2) 使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認球「J号球」とし、主催者が用意する。
 - (3) 金属・ハイコン（複合）バットはJ・S・B・Bのマークをつけた公認のものに限る。
14. 大会特別規則
 - (1) 試合時間
試合は、トーナメント戦とし5回均等回で勝敗を決することとするが、タイムゲームを採用する。1試合75分を超えた時は新しいイニングに入らずその時点の得点をもって勝敗を決する。同点の場合は直ちに特別延長戦に入る。
 - (2) 北総地区少年野球連盟 大会特別規則を採用する
15. 審判
 - (1) 審判は、帯同審判員により行う。
各チーム2名の審判員を審判の服装で帯同すること。
 - (2) 担当は、審判に関する事項の担当表により担当し、組み合わせ番号の若いチームは、球審及び2塁、他チームは、1塁及び3塁を担当する。
 - (3) 対戦表決定後並びに勝ち残り途中でチームの参加を取り消す場合は、大会運営に支障をきたすので、必ず代表者或いは監督等による審判員の人的派遣をすること。
 - (4) 大会最終日の優勝決定戦は、主催者で担当する。
16. 大会事務局
特定非営利活動法人水郷軟式少年野球協会 事務局
事務局長 鎌倉徹也
〒287-0066 香取市堀之内2112
電子メール tkamakura555@gmail.com
携帯 Tel 090-1500-5534
17. 止むを得ず不参加となる場合は、早急に事務局へ連絡すること。

北総地区少年野球連盟 大会特別規則

- ベンチ入り人員は、登録された代表者（私服）、監督（背番号30）各1名、コーチ（同28、29）2名、スコアラー（私服）1名、及び介護員（保護者）2名以内と、主将（同10）、主将以外の選手（同0～9.9）の9名以上20名以内とする。
* 連合チームの参加について：部員数が8名以下（1・2年生は除く）のチーム同士の場合は連合を認める。連合は選手数の少ないチーム同士数チームでも可能とする。
連合チームの中の1チームの部員数が8名を超えても連合していた他のチームの選手数が満たない場合、その連合チームの選手登録は救済処置として認める。ただし各地区の会長を経由して本連盟会長の承認を得ることとする。
- 同一チームのユニフォーム、アンダーシャツ、帽子、ストッキング（アンダーソックス着用）は全員統一されたものでなければならない。但し、連合チームの場合は、所属チームのものでも可能とする。※ストッキングはアンダーソックス着用が分かること。
- ヘルメットは打者、次打者、ベースコーチ、走者、ボールボーイ（シートノック時）共に両側にイヤラップの付いたものを必ず着用すること。金属バットはJ S B Bのマークの付いた公認のものに限る。
- バットの使用制限を次の通りとする。
 - ① 一般用バットで、打球部にウレタン・スポンジ等の素材の弾性体を取り付けたバットの使用は禁止とする。なお、一般用バットであっても、前記以外の木製金属製・カーボン製・複合（金属／カーボン）バットについては使用制限を行わない。
 - ② 少年用バットの使用制限は行わない。
- サングラスの使用は、競技者必携の通りとする。
- 捕手は、ヘルメット、レガース、プロテクター、マスク（SGマーク付き及びスロートガード付）、ファールカップ（女子選手は除く）を着用すること。
- 投手の守備を除く選手（打者、守備）の手袋の使用は認める。
- シートノックは、5分以内とする。
- 試合は6回（低学年大会は5回）で勝敗を争う。尚、1時間30分（低学年大会は1時間15分）に達したら新しい回には入らず、その時点の得点をもって勝敗を決する（決勝戦も同様）。同点の場合は直ちに『特別延長戦』を行う。
- 競技者必携「投手の12秒ルール及び20秒ルールの取り扱い基準」は、適用しない。
- 同一投手の投球数は1日70球以内とする。4年生以下の投手の投球数は1日60球以内とする。
- 指名打者ルールを使用することが出来る。（詳細は競技者必携の通りとする）
- 『特別延長戦』は継続打順で、無死走者1塁・2塁（走者は順次前打者）にて、投球制限を遵守の上、1イニング行い、点数の多いチームを勝者とする。1回で勝者が決定しない場合は、勝敗が決するまで継続打順にて、投球制限を遵守の上、繰り返し行う（決勝戦も同様）。特別延長戦中の日没・降雨については、全て抽選とする（決勝戦も同様）。
- 『特別延長戦』出場選手の交代は許される。
- 各チームは1日1試合迄とする。
- 得点差によるコールドゲームは、3回均等回終了以降得点差が10点以上、及び4回均等回終了以降得点差が7点以上（低学年大会も同様）となった時に適用する。決勝戦も同様とする。

17. 日没・降雨によるコールドゲームは、4回（低学年大会は3回）均等回終了後適用する（同点の場合は抽選とする）。4回（低学年大会は3回）均等回終了前については、原則として翌大会日第1試合に先立って継続試合とする（決勝戦も同様）。
日没・降雨の判断は、当該球場責任者・責任審判員が両チームの監督を招集し協議して決定する。
18. コーティシーランナー（臨時代走）を認める。
19. ベンチは、組み合わせ番号の若番が1塁側で、先攻・後攻はトスとする。
20. 抗議権は、監督（ファールライン以内）及び当該プレーヤーとする。
21. 監督が投手のもとへ行く場合に、マウンド迄の往復は駆け足を励行すること。また、選手への指示についても同様とする。尚、野球規則5.100（2）は、適用しない（監督またはコーチが1イニングに同一投手のもとへ2度行っても自動的に投手交代とはならない）。
22. 投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手に動揺を誘うような大きな声を発しないこと。
23. ベンチ内の大人がいかなる状況であっても、選手を萎縮させるような言動を禁止する。
24. 控え審判員を採用する。
25. メンバー表の提出は、大会本部へ試合開始40分前に監督、主将が3部（放送する場合は4部）持参してトスと球場等の諸注意を確認する。
26. メンバー表の氏名欄へは、当該メンバーの学年を記載すること。
27. 理由なく試合開始時間（15分猶予）迄に会場本部に到着していない時は、試合を放棄したものとする。
28. 1試合のタイムの制限は下記の通りとする。
守備側の投手のところへ行く回数制限は次の通り。
 - ①監督が行った時点で1回とする。但し、投手交代の場合は回数に含まないが新しい投手がウォームアップ（投球準備）を始めたならば、監督はベンチに戻らねばならない。もし、そのままとどまっていた場合には1回と数える。
 - ②野手（捕手含む）が行った時点で1回とする。監督が行って選手を集めると監督回数1回・野手回数が1回となる。
 - ③タイムは監督回数、野手回数共に1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回。
 - ④延長戦は監督回数・野手回数共に1イニングにつき1回とする。
 - ⑤攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることが出来るが、攻撃側のタイムより長引けば、守備側も1回とカウントされる。攻撃側の回数制限は次の通りとする。
 - ①1試合につき3回までとする。但し、低学年大会は1試合につき2回。
 - ②延長戦は1イニングにつき1回とする。
 - ③守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることが出来るが、守備側のタイムより長引けば、攻撃側も1回とカウントされる。
29. 大会規則は『大会特別規則』を除く他は、最新の『千葉県少年野球大会特別規則』、『公認野球規則』及び『競技者必携』を適用して実施する。
30. 試合球は、全日本軟式野球公認J号を使用する。